

現在の大学は、研究設備・費用等の面で研究機関として諸外国に大きく遅れをとっていることが問題に上がっている一方で、進学率が5割を超えたユニバーサル段階に達し、教育機関としても質的な転換を求められています。また、これらの現状を受けて現在検討が進められている学士課程の教育改革の内容及びそのキーワードである「学士力」という言葉も、学生への認知度は未だ低い状態にあります。

めまぐるしく変化する現代社会における大学の役割とは、そしてその大学において私達学生が得られる力＝「学士力」とはどのようなもののでしょうか。本シンポジウムは、講演及び討論を通じてこの問いへの考察を深める場として設計しました。

当日2012年12月15日には、大学教育に造詣の深い講師3名をお招きし、参加者13名（シンポジウム後に満足度アンケートにご回答頂いた人数）にお集まり頂きました。

第一部では、横浜市立大学准教授高野篤子氏、人事コンサルティング Joe's Labo 代表城繁幸氏、お茶の水女子大学教授半田智久氏を講師としてお招きし、ご講演をいただきました。高野氏は、大学の研究機関としての側面から、諸学問の基礎的な知識とそれを活用するための論理的思考力及びプレゼンテーション能力の養成を、城氏は、日本企業の終身雇用体制の限界という視点から、OJTに代る実務教育及び課題発見能力の育成を、半田氏は、大学進学率の上昇を受けて、個々の学生が自らの関心に向き合い個性を伸ばさせることへの支援を提唱されました。



第二部では、参加者13名と講師3名、そして我々主催学生3名全員が口の字型になり、活発な議論を展開しました。就職活動を始めた大学生、社会に出たのち再び大学における学修を選んだ社会人入学生、改めて自身の大学生活を振り返る社会人、これから大学進学を目指す高校生など、さまざまな立場の人々による意見の交換は、通常的大学生活ではなかなか体験できない新鮮なものでありました。

本企画を通じて、私たち企画学生は、問題意識を仲間と共有し、協力して企画・実現させることの達成感、そしてチームの一員として仕事をするという責任感を学びました。全ての経過において誠に得ることの多い経験であり、このような発展的なPBL（問題・課題解決型授業）こそ、目標とする「学士力」を育む養分となるはずです。